

平成29年度 第1回 四條畷高等学校 学校協議会 記録

日時	平成29年7月4日(火) 15時00分～16時30分
場所	本校大会議室(東館2階)
出席者	委員: 田中保和(会長)、阪口葉子、串田ゆか、乾昭彦、橋本明子 事務局: 千葉校長、森教頭、竹島事務長、中角首席、笠松主席、三好教諭(SSH)、新井教諭(GL)、田中(記録)
次第	1. 校長挨拶 2. 協議会委員紹介 3. 事務局等紹介 4. 協議会会長選出 5. 報告 6. 協議 7. その他
議題	◎ 本年度の学校経営計画に関する事項等
協議要旨	1. 「平成29年度 学校経営方針」について(校長) ・「平成29年度の取組重点」について ・「平成29年度 取組の推進」について ・「今年度推進させる取組の具体例」について 自主勉強会として「若楠会」を結成し、自発的な授業スタンダード作りを実施。 英語教育については、英語指導に関する、四條畷市と連携した取組を計画。 課題研究(探究活動)への全校体制での取組 SSH「探究ラボ」の立ち上げ。 コンクール等外部の催しへの参加の促進。 初任研を活用した教員力向上等(授業公開・研究協議)。
	2. 「進路状況等」について(教諭から報告) 地方の大学への志望者が増加したことで国公立大学の合格者が増加した。
	3. GL教育への取組について(教諭から報告) ・GL部発足の目的について ⇒課題研究活動のシステム化、課外活動のシステム化、「持続可能社会」をキーワードに課題解決に取り組む生徒の育成 ・今年度の新たな取組 ⇒1・2年でファイリング指導、課題研究活動に関する計画書・フィールドワーク行動計画書の作成指導、1年 春の課題「身近にある課題を見つけよう」夏の課題「解決に向けてチームで取組んでみよう」、課題研究計画書を有識者の方々に公開
	4. SSHへの取組について(教諭から報告) 2018年度よりⅡ期5年間の再申請に向けて、SSH事業の新たな取組や改善を推進中。

⇒課題

- ① 探究チャレンジの研究の進め方を具体化。
- ② 当事者を通じて生徒の力をどのように成長させるかを明確にして具現化。

【委員からの意見・質問】（→の後は回答）

- ・〔委員〕全国各地に進学先が増えた要因は何か。  
→〔教諭〕地方大学でも素晴らしい研究が為されている等の魅力を伝えるなどして生徒に働きかけた。
  
- ・〔委員〕地方の国公立大学の良さを学校の方から伝えてもらうのは有難い。
- ・〔委員〕今の学校はかなり違うと感じた。
- ・〔委員〕SSHの活動など盛りだくさんで、応援したい。
  
- ・〔会長〕SSHの具体的な状況について知りたい。  
→〔教諭〕SSHに申請する学校は全国的に増加している。予算も全体的に縮小してきており、審査が厳しくなっている。SSH再申請に向けて、我が校では探究活動を中心に取り組んでいる。
  
- 〔会長〕探究ラボは時間外の活動なのか。  
→〔教諭〕部活と同じ扱いで週1回ある。
  
- ・〔会長〕GL部について。非常に新しい取組みだが、教員は大変なのではないだろうか。何か解決方法はあるのか。  
→〔教諭〕多忙な中で、いかに効率的に取り組むかが現在の課題である。組織で取り組むことで個人の負担を減らすなどの工夫をしている。
  
- ・〔委員〕中学校の取組みについて。四條畷の小学校では毎日英語学習のドリルを取り入れている。そうしたことを踏まえて中学校での英語学習を考えるようになってきている。GTECも小学校においてドリル学習の成果を検証するため導入が進められている。中学校3年生の英検の受験費用1回分は四條畷市が負担するといった取組みも行われている。オールイングリッシュの授業推進については、英語の授業で活動させるための研修を大阪府が行っている。
  
- ・〔会長〕先ほど、四條畷高校もこれらの取組みで連携したいという話であったが具体的にどうするのか。  
→〔校長〕互いに授業見学を行い合うなどして、小学校や中学校の先生方と一緒に使える英語に向けた授業の研究活動をしていきたい。
  
- 〔委員〕使える英語が求められているが、読み書き中心の高校入試が変わらない現状がある。入試が変わらないと現場は変えにくい。

	<p>四條畷高校の取組は全体的に非常に素晴らしいと思う。学力向上とされているが学力以外のことも大切にされている。是非参考にしたい。</p> <p>〔委員〕改めて畷高の様々な取組を知ることができた。不登校傾向のある生徒の支援については引き続き取組んでもらいたい。子どもからあまり学校のことに関して聞くことがないので、もっと学校での取組が保護者に伝わるようになればよいと思う。</p> <p>課題研究のフィールドワークについては、帰宅時間等を明確に連絡させるようにすればよいと思う。</p> <p>〔委員〕自発性を生み出すための取組について、工夫されていると感じた。</p> <p>〔委員〕課題研究において、調べ学習の域から出ることができないという課題があったが先行研究をあたえることはしないのか。</p> <p>→〔教諭〕2年生は春休みの宿題として自らが興味のある課題の先行研究を調べる。それらを持ち寄って探究する課題を見つけていくようにしている。</p> <p>〔校長〕自分が興味のあることに自分なりに取組み、結論を出すことで満足していたところがあるが、せっかくやるなら本格的な研究という意識を持って先行研究も調べてその上でオリジナリティが出せたらと思っている。</p> <p>〔会長〕色んな取り組みが為されている一方で、まずは知識を増やす必要性を唱える先生もいると思うがどう対応しているのか。</p> <p>→〔教諭〕それに関しては悩んでいる。探究活動の指導の仕方についてまだ明確なものがない状態であるが、やることの意義について多くの教員と共有したいと思っている。</p>
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「平成29年度学校経営方針」</li> <li>(2) 「H28年度の取組と課題」及び「H29年度の取組重点」</li> <li>(3) 「平成29年度 取組みの推進」</li> <li>(4) 教育力向上関係資料</li> <li>(5) 教育改革関係資料（4種類）</li> <li>(6) 大阪府立四條畷高等学校の状況</li> <li>(7) 「平成29年度 学校経営計画及び学校評価」</li> <li>(8) 「平成28年度 学校経営計画及び学校評価」</li> <li>(9) 「平成29年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート」</li> <li>(10) 「平成28年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート」</li> <li>(11) 「2017年 本校生の進路状況（現役生のみ）」</li> <li>(12) 「2017年度入試 本校の合格状況」</li> <li>(13) GL（グローバルリーダーズ）部 資料</li> </ul>